

第二部 血液の循環不全は万病の元 -血液の循環が悪くて起こる病気-

第一章 脳梗塞（脳血栓症、脳塞栓症、ラクナ梗塞） 前半

脳梗塞は脳に栄養を供給している動脈の一部が狭窄もしくは閉塞したために、脳に血流を送れなくなり虚血状態となり、脳細胞が酸素や栄養不足のため壊死してしまうもので、血栓が原因で発症する脳血栓症と脳塞栓症、小さな梗塞が多発性に起こるラクナ梗塞に分類されます。ここでは特に脳血栓症と脳塞栓症についてどのように発症するか、もう少し詳しくお話しします。

●脳血栓症

脳血栓症は動脈壁に沈着したアテローム、すなわち動脈硬化によるもので、アテロームは徐々に大きくなって血流障害を起こし、破れて動脈壁から剥がれて血栓ができ、詰るなどにより発症します。血栓ができていても、血管を塞ぐほどの大きさになるには、ある程度の時間がかかります。この間に側副血行路（バイパス）ができてくれば、壊死の範囲がそれほど大きくならないこともあります。このように、脳血栓症は症状が徐々に出てくる特徴を持っていますが、これは血栓がだんだん大きくなるにしたがい血流が悪くなっていくためです。たとえば食事をしている箸を落とす、わずかに高い敷居につまずく、めまいや立ちくらみがする、といった軽い障害から症状が出始めます。この段階では「ちょっとおかしいな、疲れたのかな」程度の認識しかできません。これを「隠れ脳梗塞」と言います。痛みや気持ちの悪さなどの症状が無いため、発症直後に脳梗塞だと気付かないことも多いのです。しかしながら進行していくと、顔面や手足の片側に麻痺が現れたり、ろれつが回らなくなったりします。これらは脳梗塞の予兆の可能性もあるのです。しかしながら、このような予兆が現れないこともあります。

脳梗塞は発症を自覚しにくい病気です。高齢者の周りの方は日頃から生活状態を見ていて、いつもと違う、動きが違う、といった変化を見逃さない様にしていただきたいです。次のようなサインが見られたら直ぐに専門病院で診察を受けることが重要です。

○ のどの異常

- ・声がかすれる
- ・物が飲み込みにくい
- ・むせやすい
- ・のどにタンが絡んでいるような気がする

○ 知覚障害

- ・手足が急にしびれる（箸を落としたり、コップの水をこぼしてしまう）
- ・手足がしびれたり治ったりを繰り返す
- ・手足がふるえる
- ・足がもつれたり、敷居などでつまづきやすくなった
- ・手袋をしているように感じる
- ・靴下を履いているように感じる
- ・顔に布がかかっているように感じる
- ・口の周りや唇にしびれがある

○ 視力障害

- ・片側の視界が見えず、物や人にぶつかる
- ・視野の一部が欠けたり、物が二重に見える

○ その他

- ・めまい、ふらつき。立ちくらみが起きる
- ・意識がボーッとすることがある
- ・言葉が出にくい、きちんと発音できない
- ・急に物忘れがひどくなった

第二部 血液の循環不全は万病の元 -血液の循環が悪くて起こる病気-

第一章 脳梗塞（脳血栓症、脳塞栓症、ラクナ梗塞） 後半

●脳塞栓症（心原性脳塞栓症）

もう一つの脳梗塞、脳塞栓症についてお話しします。

この病気の特徴は、突然発症することです。徐々に症状が現れてくる脳血栓症と異なり、脳塞栓症は脳以外の部位（多くは心臓や首の血管）で出来た血液などの塊（血栓）が、血流によって脳動脈まで流れて行き、突然血管を詰まらせてしまうことで起こります。発症は急であり、その結果病態は重篤で、脳に大きなダメージを与えるため、発症後の状態もあまり良くない場合が多いのです。近年心臓からの血栓だけでなく、頸動脈壁にできた血栓が脳で詰ってしまう脳塞栓が注目されています。

たとえば、心房細動と診断された方、心臓弁膜症等の疾患がある方は心臓を流れる血液がよどんでいることが考えられます。心房細動は不整脈の一種で、心房（心臓の一部）が小刻みに震えるため、血流が十分に押し出せず血流がよどみ、血の塊ができやすくなるのです。血塊が心臓から送り出され、脳の動脈まで運ばれていくものもあるでしょう。そして運悪くその血管が血塊の大きさよりも細かったら、血塊は血管を塞ぐように詰ってしまいます。

脳の血管は細かく枝分かれしており、先の方へ行くにしたがいどんどん細くなっています。また脳の中では血管がへアピンカーブしているようなところがいくつもあり、曲がりくねっているため脳内では血塊が詰る状態はいくらでも起こりえるのです。

これが脳塞栓で、脳梗塞を発症する頻度が非常に高いのです。

脳梗塞の3人にひとりが心房細動によるとされています。さらに心房細動のある方は繰返し脳梗塞を起こしやすいので、予防、すなわち、心臓専門医による予防的治療と生活習慣の管理が最重要です。

以上、脳血栓症も脳塞栓症も、どちらも血栓が原因でおこる血栓症なのです。いうまでもなく脳はからだの重要な臓器です。脳に行く血液が4、5分間でも止まってしまうと脳の細胞は死んでしまい、二度と回復することはありません。

からだの感覚や運動をつかさどる部位の血管が詰まってしまうと、その部位の脳神経細胞が壊死し、感覚麻痺、運動障害、意識障害、さまざまな症状が現れてきます。たとえ命が助かったとしても、片麻痺、つまり半身不随や言語障害のような重篤な症状が残ってしまい、その後の人生設計を大きく狂わせてしまうのです。

また、今まで触れませんでした。脳出血というのは、脳の中にある動脈が破れて、脳内に出血の塊（血種）ができる病気です。通常は細い動脈が破れるのですが、結果的にこの血種が原因で脳組織が破壊されますので、脳梗塞と全く同じような症状がでます。

脳出血も高血圧や脳の動脈硬化を合併することが多いので、高血圧や動脈硬化の治療、予防が重要です。

脳梗塞（脳血栓および脳塞栓）や脳出血、くも膜下出血などを総称して脳血管障害と呼ばれます。

この第二部、第一章は少し衝撃的ではありますが、あえて細かく記載させて頂きました。私の母がまさしく心房細動、心不全、といった心臓の病をずっと患っておりました。そしてある日突然に脳梗塞を発症致しました。それまで心臓の病気で脳梗塞になるなどと思ってもいませんでした。

もっと早く予防することができていたら、と、後悔ばかりしています。そして今、残りの人生を寝たきりで過ごしている母がかわいそうでなりません。同じ思いをする方が少しでも減って欲しい、どうか早く気付いて欲しいと願って、今回はまとめました。

次回は高血圧についてです。